

道路占用工事等標準断面図

都 城 市

令和2年4月

# 車道の標準舗装構成について

都 城 市



都城市における車道の復旧に関して標準的な舗装構成を定める

## 諸 元

舗装構成の策定に用いる基準は舗装設計便覧（日本道路協会）に基づく諸元とする。

※現況の舗装構成の規格（ $T_A$ ）が、ここに定める標準舗装構成を上回っている場合は、現況を復元すること。

## アスファルト舗装

舗装の構造設計には、 $T_A$ 法を用いる

→ $T_A$ 法に基づき、等値換算係数を用いて $T_A$ 値を満足させる

出典：舗装設計便覧 P62

舗装設計期間は10年とする

→設計交通量を定める設計期間は10年とする。

舗装の信頼性は50%、75%、90%を用いる

→一般市道については50%、75%、90%を用いる  
→整備済街路については90%を用いる

設計CBRは4及び8とする

→一般市道は路床が軟弱な箇所が多いため設計CBR4とする  
→整備済街路は路床を置換えている可能性があるため設計CBR8とする

目標とする $T_A$ は以下のとおりとする。

→下図参照

交通区分	設計CBR8	設計CBR4		
	信頼性90%	信頼性90%	信頼性75%	信頼性50%
N <sub>5</sub> (B交通)	19	-	-	-
N <sub>4</sub> (A交通)	-	18	-	-
N <sub>3</sub> (L交通)	-	14	12	11

出典：舗装設計便覧P82 表5.2.14

## コンクリート舗装

経験に基づく設計方法を適用する

経験に基づく設計方法と理論的設計方法の中から、経験に基づく設計方法を適用する

出典：舗装設計便覧P147

舗装計画交通量はN<sub>3</sub>(L交通)及びN<sub>5</sub>(B交通)とする

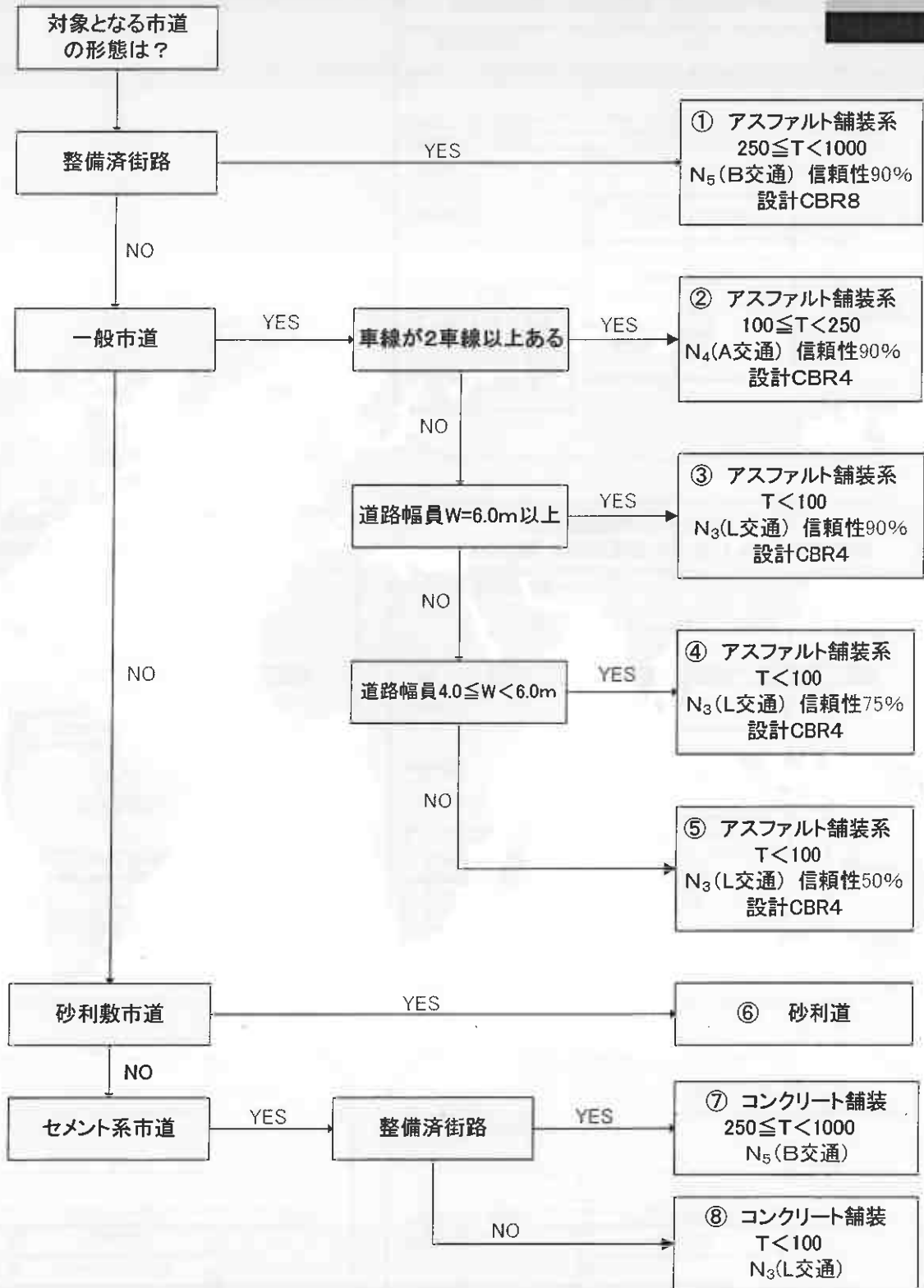
→一般市道はL交通、整備済街路はB交通とする

舗装設計期間は20年とする

→設計交通量を定める設計期間は20年とする。

# 車道舗装構成決定フロー図

都 城 市



※整備済街路とは、歩道を有した2車線以上の車線がある道路のことで主に都市計画道路として整備の完了した1・2級市道及び、それに相当する市道を差す。

※道路幅員とは、路側や排水構造物等も加味した道路の有効幅員全体を差す。  
(路肩や法面等は含めない)

※Tとは、舗装設計交通量で大型車交通量のことを差す。

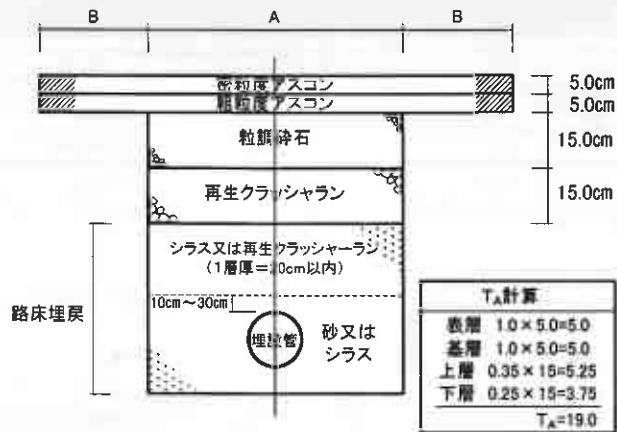
# 標準断面図(車道部)

都 城 市

## ① アスファルト系舗装道路

250 ≤ T < 1000 N<sub>5</sub>B交通 信頼度90% 設計CBR8

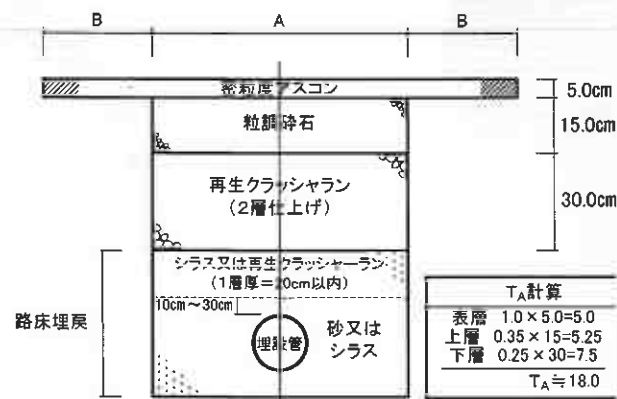
整備済街路



## ② アスファルト系舗装道路

100 ≤ T < 250 N<sub>4</sub>(A交通) 信頼度90% 設計CBR4

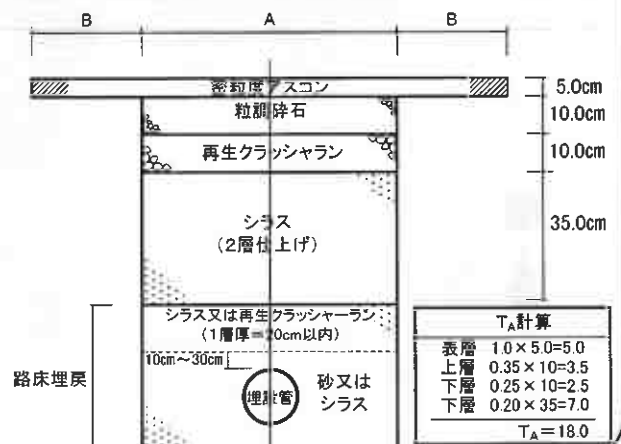
一般市道(2車線以上)



## ② アスファルト系舗装道路

100 ≤ T < 250 N<sub>4</sub>(A交通) 信頼度90% 設計CBR4

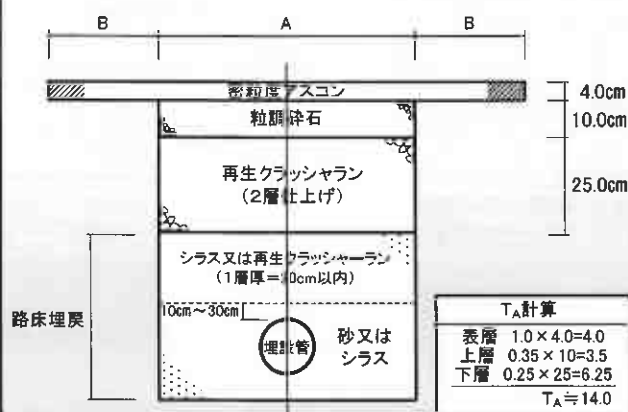
一般市道(2車線以上)



## ③ アスファルト系舗装道路

T < 100 N<sub>3</sub>(L交通) 信頼度90% 設計CBR4

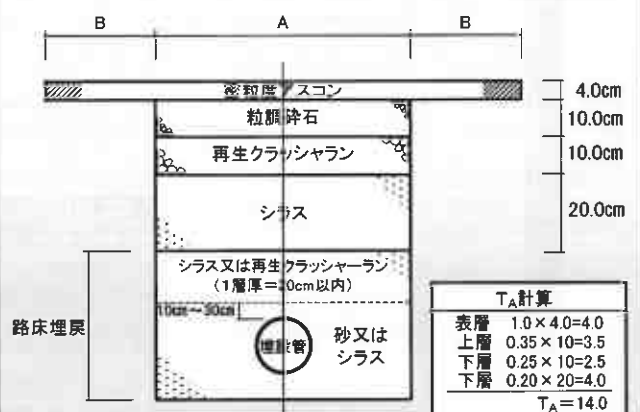
一般市道(W=6.0m以上)



## ③ アスファルト系舗装道路

T < 100 N<sub>3</sub>(L交通) 信頼度90% 設計CBR4

一般市道(W=6.0m以上)

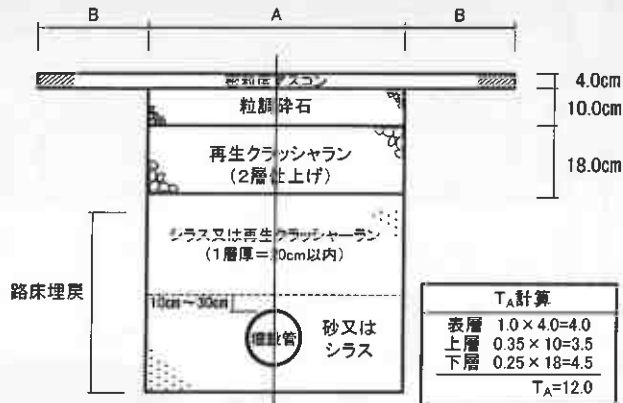


# 標準断面図(車道部)

都城市

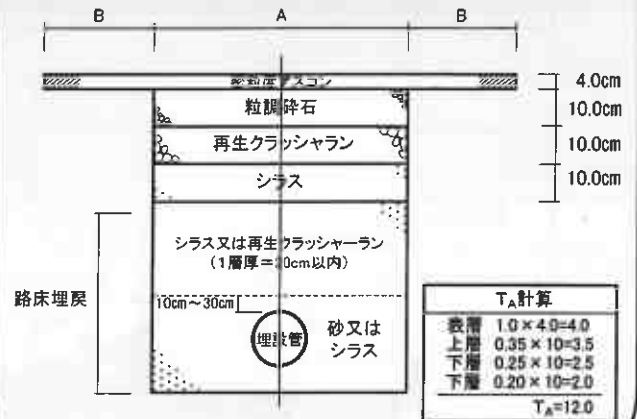
④ アスファルト系舗装道路  
T<100 N<sub>3</sub>(L交通) 信頼度75% 設計CBR4

一般市道(W=4.0≦W≦6.0m)



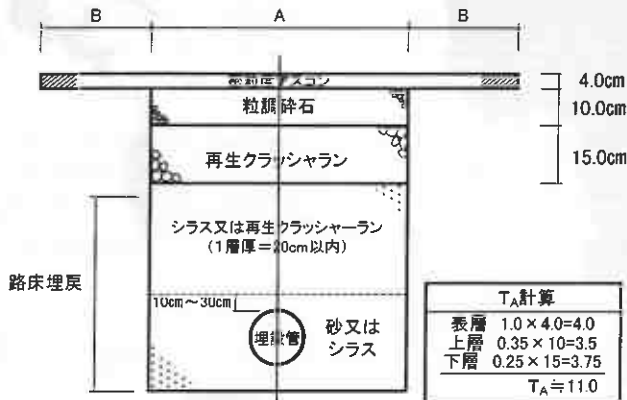
④ アスファルト系舗装道路  
T<100 N<sub>3</sub>(L交通) 信頼度75% 設計CBR4

一般市道(W=4.0≦W≦6.0m)



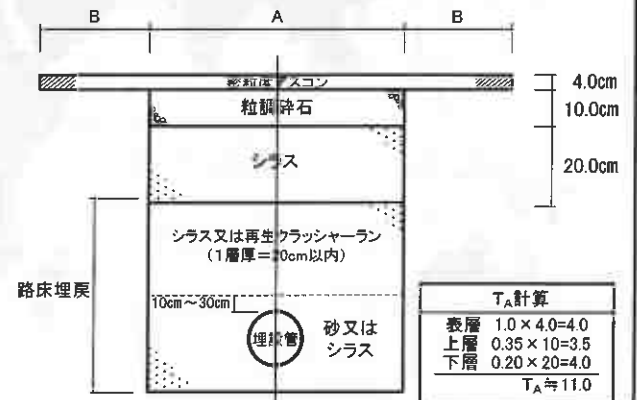
⑤ アスファルト系舗装道路  
T<100 N<sub>3</sub>(L交通) 信頼度50% 設計CBR4

一般市道(W=4.0m未満)

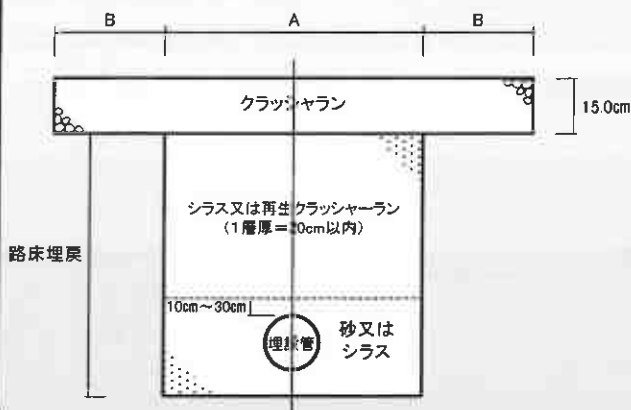


⑤ アスファルト系舗装道路  
T<100 N<sub>3</sub>(L交通) 信頼度50% 設計CBR4

一般市道(W=4.0m未満)



⑥ 砂利道

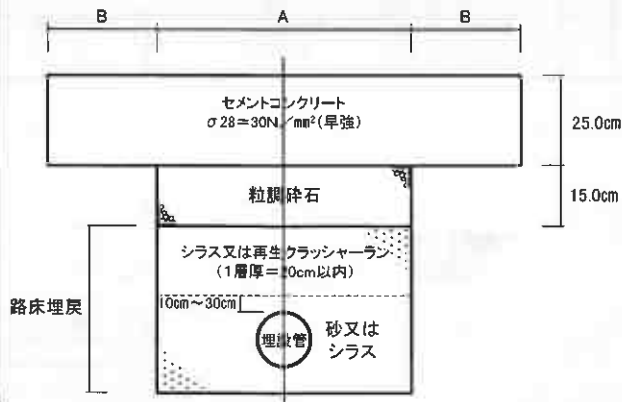


# 標準断面図(車道部)

都 城 市

## ⑦ コンクリート舗装道路

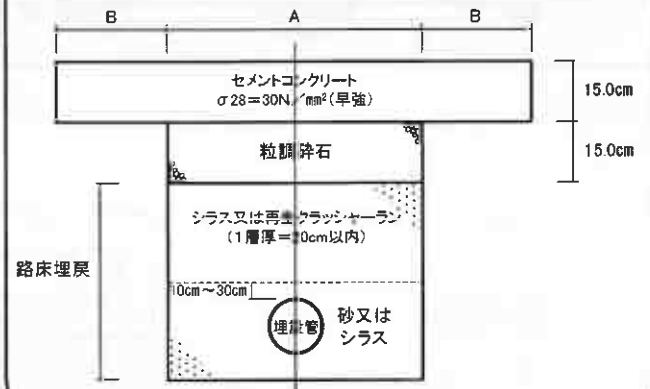
整備済街路  $250 \leq T < 1000$   $N_5$ (B交通)



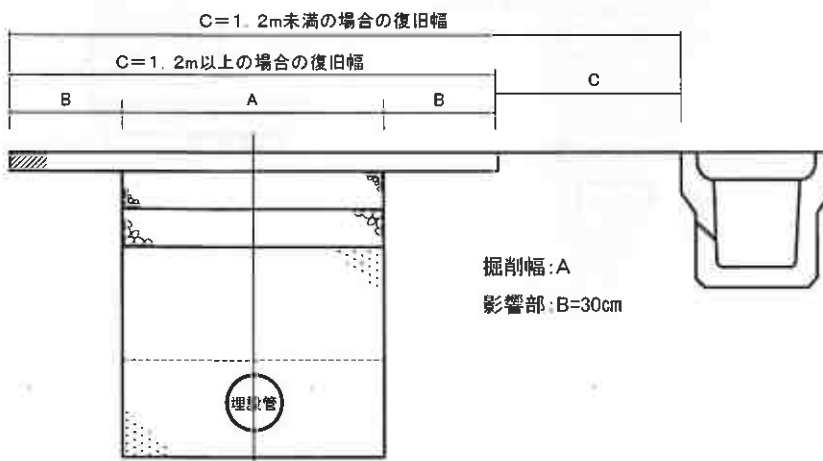
出典: 舗装設計便覧

## ⑧ コンクリート舗装道路

一般市道  $T < 100$   $N_3$ (L交通)



## 【参考】 占用工事に伴う復旧幅について

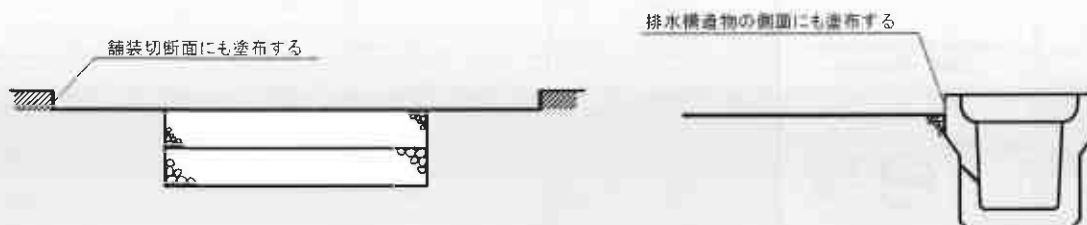


※1道路法施行規則第4条の4の7に準じて決定しています。現場状況やその他の理由によりこれにより難しい場合、またインターロッキングブロック舗装等については、事前協議をお願いします。

※Cの幅が1.2m以上であっても、舗装の状態が劣悪な場合は、道路管理者と協議をして下さい。

## アスファルト乳剤の塗布について

舗装打設前に路盤の乾燥や乱れを防ぐためにアスファルト乳剤を塗布しますが、舗装の切断面や排水構造物の側面にもブラシ等を使って入念に塗布して下さい。





都城市における歩道の復旧に関して  
標準的な舗装構成を定める

諸 元

舗装構成の策定に用いる基準は、舗装設計便覧（日本道路協会）に基づく諸元とする。

歩道舗装について

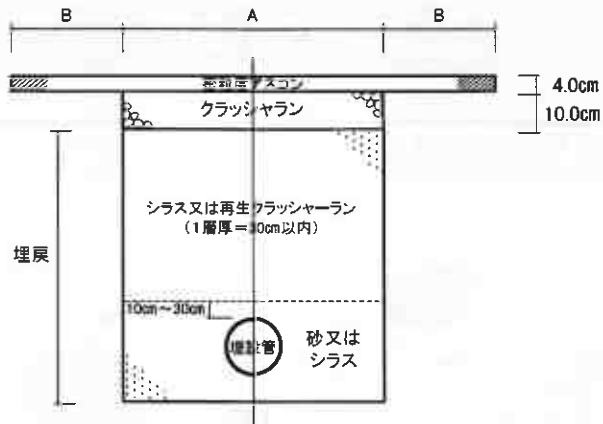
下表のとおり、区分Ⅰ、Ⅱを設定し、4t車以上に対応するため、区分Ⅲを新設し、車道舗装のN<sub>3</sub>(L交通)並の舗装構成とする。  
(参考：旧アスファルト舗装要綱)

アスファルト舗装	一般歩道部	① アスファルト舗装 (区分Ⅰ)
	4t車未満の走行有	② アスファルト舗装 (区分Ⅱ)
	4t車以上の走行有	③ アスファルト舗装 (区分Ⅲ)
透水性舗装	一般歩道部	④ 透水性舗装 (区分Ⅰ)
	4t車未満の走行有	⑤ 透水性舗装 (区分Ⅱ)
	4t車以上の走行有	⑥ 透水性舗装 (区分Ⅲ)
インターロッキング 舗装	一般歩道部	⑦ インターロッキング舗装 (区分Ⅰ)
	4t車未満の走行有	⑧ インターロッキング舗装 (区分Ⅱ)
	4t車以上の走行有	⑨ インターロッキング舗装 (区分Ⅲ)
タイルなどの 化粧材舗装	一般歩道部	⑩ タイルなどの化粧材舗装 (区分Ⅰ)
	4t車未満の走行有	⑪ タイルなどの化粧材舗装 (区分Ⅱ)
	4t車以上の走行有	⑫ タイルなどの化粧材舗装 (区分Ⅲ)
セメント舗装	一般歩道部	⑬ セメント舗装系 (区分Ⅰ)
	4t車未満の走行有	⑭ セメント舗装系 (区分Ⅱ)
	4t車以上の走行有	⑮ セメント舗装系 (区分Ⅲ)

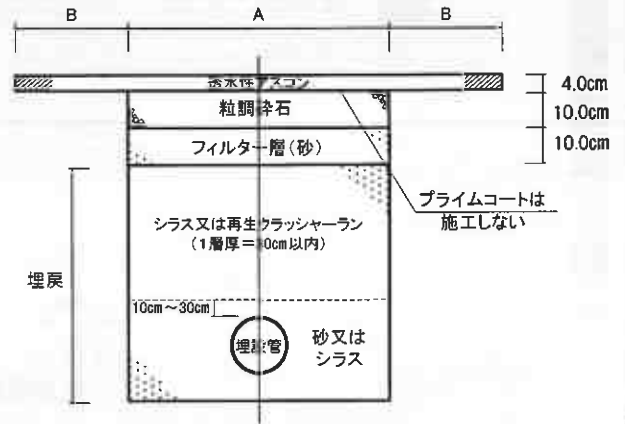
# 標準断面図 (歩道部)

都 城 市

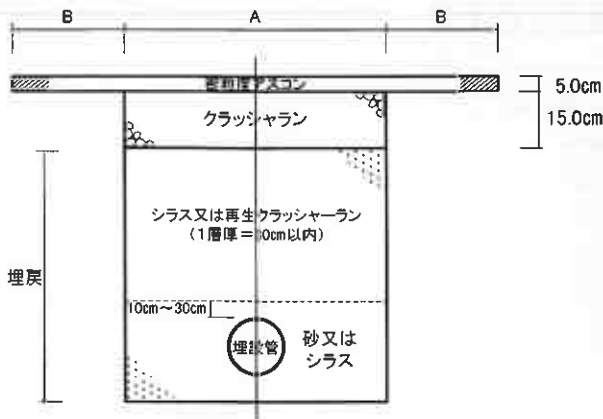
① アスファルト系舗装 (区分Ⅰ)



④ 透水性舗装 (区分Ⅰ)

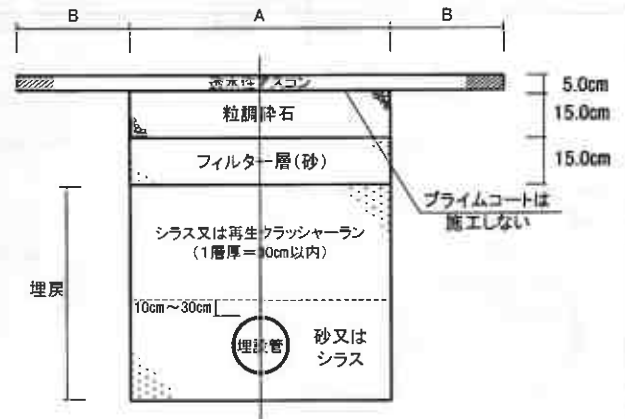


② アスファルト系舗装 (区分Ⅱ)



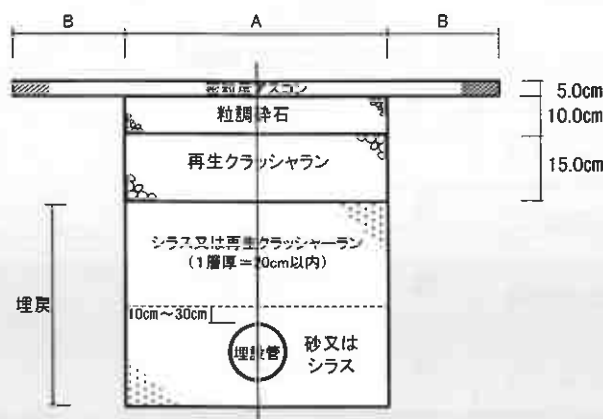
※4t以下の車両通行が見込まれる場合

⑤ 透水性舗装 (区分Ⅱ)



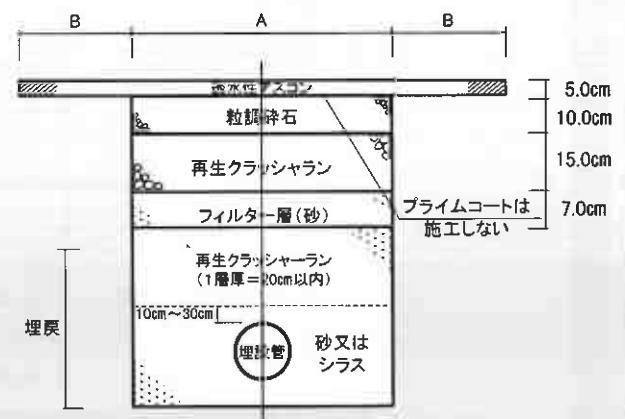
※4t以下の車両通行が見込まれる場合

③ アスファルト系舗装 (区分Ⅲ)



※4t以上の車両通行が見込まれる場合

⑥ 透水性舗装 (区分Ⅲ)



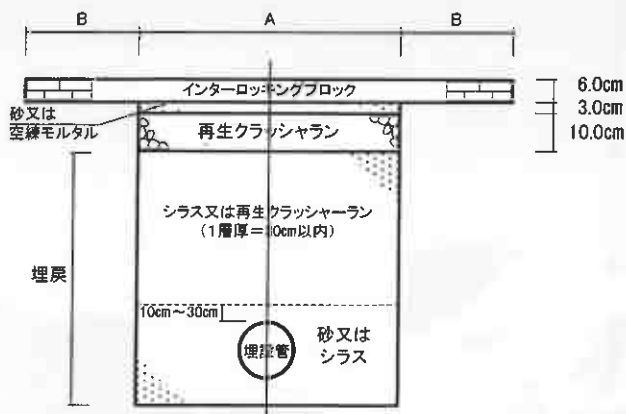
※4t以上の車両通行が見込まれる場合



# 標準断面図 (歩道部)

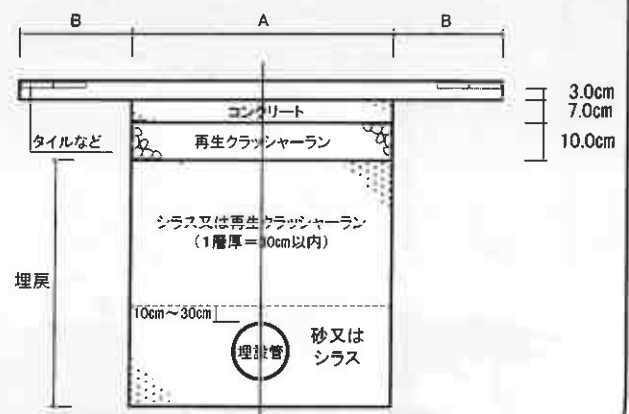
都 城 市

⑦ インターロッキング舗装 (区分Ⅰ)

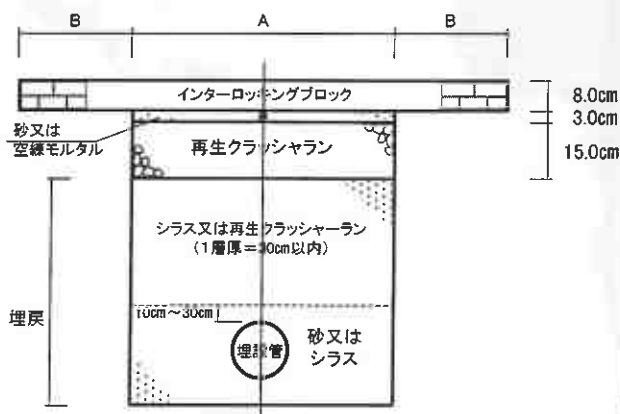


※一般家庭等の乗入部で既設ブロック厚みが6cmの場合

⑩ タイルなどの化粧材舗装 (区分Ⅰ)

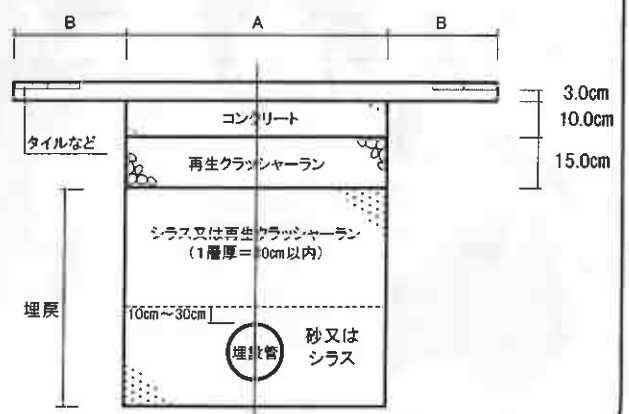


⑧ インターロッキング舗装 (区分Ⅱ)

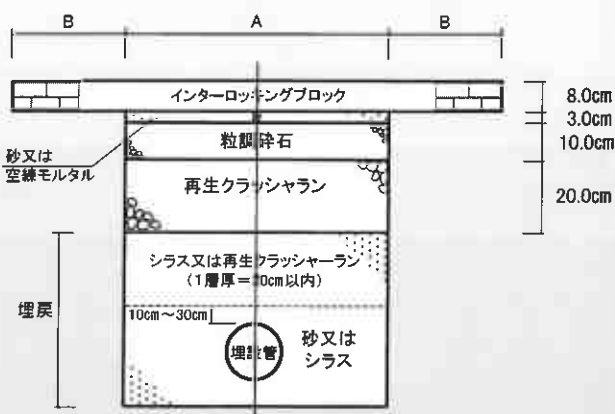


※4t未満の車両通行が見込まれる場所で既設ブロック厚みが6~8cmの場合

⑪ タイルなどの化粧材舗装 (区分Ⅱ)

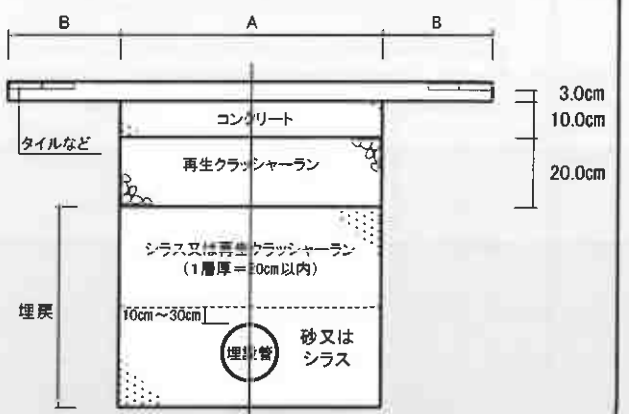


⑨ インターロッキング舗装 (区分Ⅲ)



※4t以上の車両通行が見込まれる場所で既設ブロック厚みが6~8cmの場合

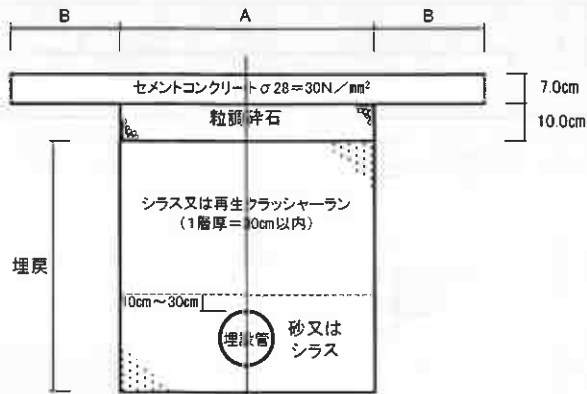
⑫ タイルなどの化粧材舗装 (区分Ⅲ)



# 標準断面図 (歩道部)

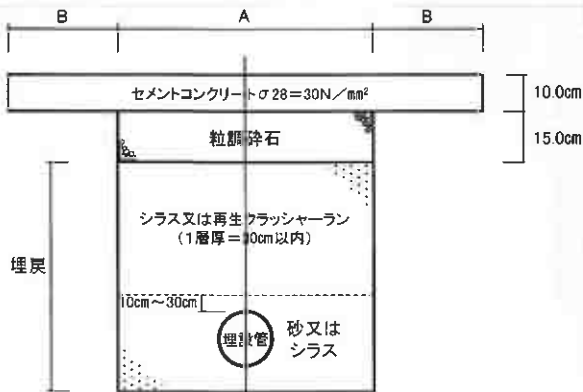
都 城 市

## ⑬ コンクリート舗装 (区分Ⅰ)



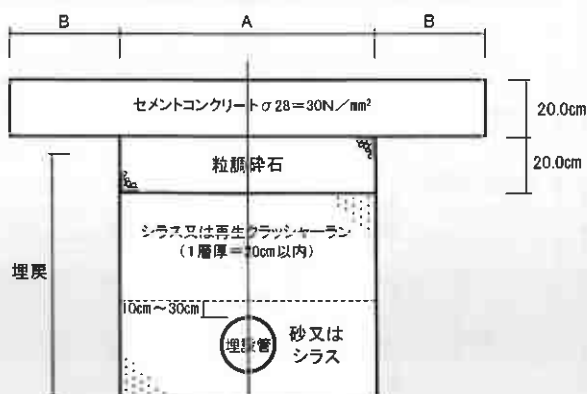
幅員が1m未満の場合は3m、1m以上の場合は5mの間隔で瀝青材質の目地を設置すること

## ⑭ コンクリート舗装 (区分Ⅱ)



幅員が1m未満の場合は3m、1m以上の場合は5mの間隔で瀝青材質の目地を設置すること

## ⑮ コンクリート舗装 (区分Ⅲ)



幅員が1m未満の場合は3m、1m以上の場合は5mの間隔で瀝青材質の目地を設置すること